

特集 1

苦痛の少ない内視鏡検査のおはなし

特集 2

脳ドックをうけましょう！

- 検査科レポート vol.3
「おしっこの検査」
- 頼れる！まちの医療機関
「篠原口整形外科・皮膚科」

- NEWS
エコ推進チーム
- 今月のトピック
女性専門外来 乳腺外科からのお知らせ

消化器センター 庄司 達弘



1 苦痛の少ない内視鏡検査

多くの皆さまに内視鏡検査という言葉が広く知られるようになりました。通称「胃カメラ」「大腸カメラ」と言うこともありますが、正式には「胃内視鏡」「大腸内視鏡」と言います。

内視鏡検査の代表格として、胃内視鏡検査があります。胃だけでなく食道や十二指腸も同時に観察します。皆さまのイメージとしては、太い管を口から入れられて「ゲゲー」となる苦しい検査といったところでしょうか。しかし実際は「意外と楽だった!」とおっしゃる方がほとんどです。

検査の手順としてまず、のどにゼリー状の麻酔薬をためて表面麻酔を行ないます。続いて鎮静剤の注射をすることでボーッとした状態になり、その間に検査を行います(鎮静剤の使用により検査後、しばらくはリカバリルームのリクライニングでお休みいただきます。

また、鎮静剤をご希望されない患者さまには、のどの麻酔のみで検査を行います。検査時間は5~10分くらいで、気が付いたら検査が終わっていたという方がほとんどです。20年ほど前の日本では、鎮静剤を使用して内視鏡検査を行うことはあまりありませんでした。しかし、欧米からの影響で日本でも鎮静剤を使用する病院が徐々に増えてきました。楽に検査を受けることができれば、「また来年も受けようか」という気持ちにもなるものです。そうすると定期的な胃の健康診断ができ、がんなどの病気も早期に発見できるというメリットがあります。

また、胃内視鏡の良いところは、バリウム検査と異なり胃を直接観察できるという点、検査時に胃の細胞を採取することが可能であるといった点など、様々な利点があります。

次に大腸内視鏡検査についてです。食生活の欧米化とともに、近年大腸がんが急増しています。実際に検査を行っている中、大腸がんの前段階の状態であるとされる「大腸ポリープ」が見つかる方が非常に多いと感じております。当院では、検査時にポリープが発見された場合、その場で内視鏡的に切除することが可能です。ただしその場合、安全のために一泊入院をしていただきます。

大腸内視鏡検査のおおまかな流れですが、まず前日に検査専用食を食べていただき、寝る前に10mlほどの下剤を飲んでいただきます。次に当日は朝から食事をせずに来院していただき、別の種類の下剤を飲んでいただきます。下剤を飲むのが億劫とおっしゃる方もいらっしゃいますが、現在のところ、これ以外の方法で大腸の中をきれいにする方法はありません。ただ、皆さま意外と飲めてしまうものです。当日の昼過ぎから順番に検査を開始いたします。この検査も通常は鎮静剤を使用して行いますので、痛みを感じることはほとんどありません。検査時間はだいたい15~20分くらい、ポリープが見つかったその場で切除するときは30分くらいかかります。

次に、胃内視鏡検査と大腸内視鏡検査について、もう少し詳しいお話をいたします。

2 胃内視鏡検査で何がわかるか

まず、胃内視鏡検査には2種類あることを説明します。それは、「経鼻内視鏡」と「経口内視鏡」です。前者が比較的新しいもの、後者は従来からあるものです。新しいということで経鼻内視鏡の方が優れていると思われるかもしれませんが、しかしそこにはやはりメリットとデメリットがあります。経鼻内視鏡は鼻腔をゼリーで表面麻酔し、鎮静剤は使用せずに行います。経口内視鏡と比べてより細かい内視鏡を鼻から挿入、のどを通過するときも「ゲツ」という反射が少ないのが魅力です。また検査中起きているので施行医とのコミュニケーションも可能となります。しかし一方で、操作性、画像解像度、施行時間に関しては経口内視鏡に優っているとは言えません。内視鏡検査のもっとも大事な目的は早期のがんを発見すること。経鼻内視鏡でもそれは可能なのですが、より画像解像度の高い経口内視鏡の方を当院ではお勧めします。経口内視鏡検査の流れについては前項で説明しました。

さて、この検査で見つかる病気にはどんなものがあるのでしょうか。実にたくさんあるのです。いくつか挙げましょう。逆流性食道炎、食道がん、食道ポリープ、食道静脈瘤、食道裂孔ヘルニア、胃炎、胃潰瘍、胃がん、胃リンパ腫、胃ポリープ、胃静脈瘤、十二指腸炎、十二指腸潰瘍などなど。まだまだあります。これらの病気の細かい情報は内視鏡検査でないと得られないでしょう。

自覚症状が全くなくても病気が発見されることはたくさんあります。皆さまも積極的に胃内視鏡検査をお受けになってください。

また、内視鏡を用いた様々な治療も当院では行っております。詳しくは、消化器内科または外科外来でご相談ください。

3 大腸内視鏡検査で何がわかるか

さきほども話しましたが、日本人に大腸がんが急増しています。食事の欧米化と飲酒などが危険因子となっているようです。大腸内視鏡検査は大腸がんを正確に診断するのに不可欠な検査です。

さて、この検査では他にどんな病気がわかるのでしょうか。いくつか挙げます。大腸ポリープ、大腸がん、痔、虚血性大腸炎、薬剤性大腸炎、大腸憩室、潰瘍性大腸炎、クローン病、大腸リンパ腫などなど。この他にもたくさんあります。聞き慣れない病名もあったかもしれませんが、われわれがよく遭遇する病気は何と言っても大腸ポリープです。実はかなり大きなポリープがあっても自覚症状はないことがほとんどです。大腸ポリープは良性腫瘍であることが多いのですが、放置するとがん化したり、

すでに一部ががん化していることもあるので、発見されれば内視鏡で根こそぎ切除してしまいます。その際、内視鏡の先端から出る小さな電気メスで焼き切ります。痛みはありません。電気を使用するために、その熱で大腸に傷がついたり出血したりすることもまれにありますが、大腸ポリープを放置するデメリットを考えれば、やはり切除しておいた方がよいでしょう。当院では毎日のようにこのようなポリープ切除を行っておりますので、安心してお任せください。

また、血便や慢性的な下痢に対しても大腸内視鏡検査で調べることをお勧めします。気になる症状があれば、消化器内科または外科外来でご相談ください。

あなたの健康維持のためにぜひ内視鏡検査をお役立ててください。



受診案内

内視鏡検査のスケジュールを下記に掲載しています。午前は上部内視鏡検査【GIF】を8人~12人、午後は下部消化管内視鏡検査【CF】を4~5名を毎日行います。肝臓や胆道、すい臓の病気を調べる検査【ERCP】は随時行っております。

外来診療担当表

	月	火	水	木	金	土
午前		庄司		岩田	庄司	
午後			窪田	岩田		

内視鏡検査担当表

	月	火	水	木	金	土
午前【GIF】	庄司 黒木	昭和大 学横浜市 北部病院	庄司	廣田	阿曾沼	庄司
	12件					
午後【CF】	庄司	山田	黒木	田所	庄司	
ERCP	4件+(Polypectomy:1件) 随時					

ご予約、お問い合わせ

TEL:045-402-7015

平日 8:30~17:30 土曜 8:30~13:00

脳ドックをうけましょう!



text 画像診断部 主任
金井 啓博

脳ドックとは?

ズバリ、脳を対象とした人間ドックのことです。「脳血管疾患（脳卒中）」は、半身マヒや言語障害など、重度の後遺症が残ってしまう病気ですが、通常の間ドックには脳の画像検査は含まれず、脳卒中に対して十分とはいえません。そこで脳ドックです。脳疾患は、初期段階では無症状なことが多く、早期発見には定期的にチェックを受けることが重要です。当院では、人間ドックに追加したり、脳ドックのみで受けることもできます。

脳ドックでわかること

脳ドックで重要なのは脳卒中や、そのほかの脳疾患の危険因子の早期発見、脳血管性痴呆の予防です。当院の脳ドックは、脳内で起こりうる病気を広く診断するために MRI では5種類の撮像法を用いて脳の状態を、MRA にて脳血管を2種類の回転方向で細やかに観察できるように検査し、必要があればその場で追加の撮像をおこないます。病院の利を活かし、専門医認定を持った放射線科医と脳外科医でダブルチェックし、病気が見つかった場合は診察時に治療やフォローアップの計画が立てられることが当院の脳ドックの特徴です。

当院の脳ドックの流れ



1 脳 MRI (脳の検査)、MRA (脳血管の検査) の施行 (検査時間は15分程です)



2 放射線科医の読影 (検査画像を観察し、所見を読み、診断を下すこと。)



3 脳外科医による結果報告。何かの病気が見つかった時に速やかに治療に移行できます。

以下のような病気がわかります

脳梗塞

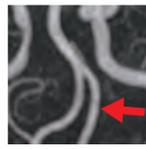


ラクナ梗塞の痕 (T2 強調画像)

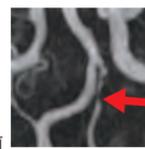
血管が細くなったり、血の固まりが詰まって、脳の細胞が障害を受ける病気です。脳ドックで発見される脳梗塞は過去の傷跡を見ていて、治療の対象とはなりません。脳ドックでは、症状を出さない無症候性脳梗塞の発見や、将来的に起こりうる脳梗塞を予防することが目的の一つとなります。

血管狭窄症

動脈硬化などにより血管が狭くなってしまふ病気です。無症状に進行しますが、狭窄がひどくなると一過性脳虚血発作などを起こすこともあります。これは脳梗塞の1歩前の段階です。



4年前



現在

← 定期検査で動脈狭窄が見つかった1例 (MRA MIP 像)

脳動脈瘤



右中大動脈瘤 (MRA MIP 像)

脳動脈瘤は脳の血管分岐部などに生じる動脈のこぶです。動脈瘤自体は余程大きいものでない限り無症状ですが、破裂するとクモ膜下出血を起こすことで有名な病気です。これも脳血管を画像化する MRA で主に発見されます。発生部位にもよりますが1mm程度の大きさの動脈瘤でも発見することができます。

脳の血管奇形

存在だけでは殆ど無症状で、頭蓋内出血や痙攣発作の原因を調べていて見つかることが多い病気です。出血は20~40歳台で発症することが多いことも知られており、若い人の脳出血、クモ膜下出血では動脈瘤や血管奇形を疑います。

脳出血

脳の血管が切れることにより起こります。脳ドックで発見されるような無症状性のものは、脳出血そのものが治療の対象となることはなく、脳出血の原因を検索し、その治療を行うことが必要となります。

こんな方におすすめします

脳疾患の発症傾向から

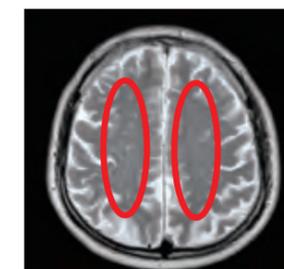
脳腫瘍や先天的な血管奇形などを除くと、脳の病気は脳出血や脳梗塞といった血管に起因する病気がほとんどです。脳出血の場合は男性に多く見られ、脳梗塞の男女比は同程度になります。40~50歳代に多いのが脳出血、60歳を超えて増えてくるのが脳梗塞です。したがって中高年の方、動脈硬化や、誘発因子である糖尿病、高血圧、高脂血症などの基礎疾患を患っている方には特に脳ドックをおすすめします。

上記に当てはまるような項目がある方、定期健診などを受けたことのないような方は、一度検討されてみてはいかがでしょうか?

脳腫瘍

頭蓋内にできた腫瘍性病変のことで、初めは無症状のことが多く、放置すると頭痛、運動障害、知覚障害、言語障害、視力・視野障害といった症状をきたします。良性で発育速度の遅いものは経過観察となることもありますが、悪性ならば手術、放射線療法、化学療法などの治療が必要となります。

びまん性白質病変



加齢性変化 (T2 強調画像)

脳室周囲や深部白質に見られる異常で、脳の虚血により生じるといわれています。治療の対象とはなりません、生活習慣病のチェックが必要です。

脳の萎縮

加齢とともに進行しますが、程度は個人差があり、萎縮のみで病気と判定することはありません。認知症を伴う萎縮もありますが、脳ドックのみで認知症の判定はせず、次の検査の足がかりとなります。

遺伝的素因から

動脈瘤の有病率は男性に比べ女性で高く、年齢とともに増加する傾向がありますが、働き盛りの年齢層にも多いのが、クモ膜下出血です。クモ膜下出血の原因のほとんどは脳動脈瘤の破裂なのですが、血縁者に脳動脈瘤が見つかった場合、その有病率は約3倍高いという報告があり、これが働き盛りの世代にクモ膜下出血が多い理由のひとつです。ご両親やご兄弟に脳動脈瘤や、クモ膜下出血を患った方がいる場合は若い方でも脳血管のチェックが大切だと考えます。

ご予約・お問い合わせ

045-402-7111

月~金 9:00~12:00
14:00~17:00
土 9:00~13:00

おしっこの検査

臨床検査科
若月 裕子



おしっこ（尿）は腎臓で血液からつくられます。血液が全身をめぐる過程で身体に必要なものは再吸収され、不要なものが尿として排出されます。

おしっこの中に出ていて良いもの、良くないものを調べることで、おしっこをつくる腎臓や、その通路である尿管、膀胱系の病気の診断につながります。また、糖尿病や肝臓病など内科的な病気の発見につながることもあります。現在では、検査キットが開発され、おしっこを用いている検査をすることができるようになりました。今回はその中で最も一般的な検査で、おしっこの状態を観る「尿定性」とおしっこを遠心分離して集めた成分を顕微鏡で観察する「尿沈渣」について簡単に紹介します。

<検査結果ができるまで>



簡易検査

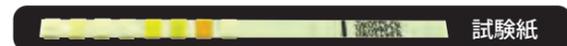
簡易キットを用いて少量のおしっこで次のようなスクリーニング検査もできます。

- ・尿中ピロリ抗体→胃がんになりやすいピロリ菌を調べます。
 - ・尿中肺炎球菌
 - ・尿中レジオネラ
- 肺炎の原因菌を調べます。

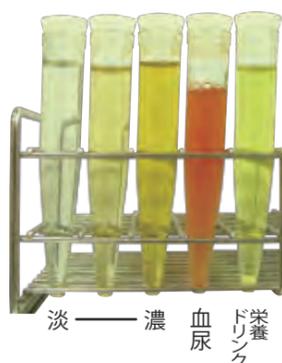
尿定性

おしっこの見た目や成分を調べます。機械にのせて試験紙で測定します。

色や濁り、PH、タンパク、糖、潜血などがあるかないか (-) ~ (4+) で判定します。タンパクは健康な人でも (+) になることがあります。糖 (+) では糖尿病、潜血 (+) では尿管結石などの疑いが考えられます。



おしっこの色は水分摂取量によって健康な人でも変化します。また、栄養ドリンクの摂取により蛍光色になることもあります。

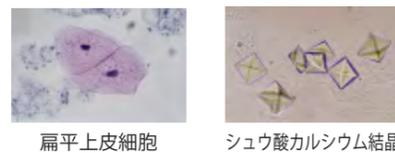


尿沈渣



おしっこに含まれる細胞などを顕微鏡を用いて観察します。

健康な人でも見られる成分

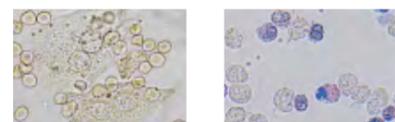


扁平上皮細胞

シュウ酸カルシウム結晶

ハウレンソウやアスパラガスの多量摂取でよくみられます。

膀胱炎や尿管結石で見られることがある成分



赤血球

白血球

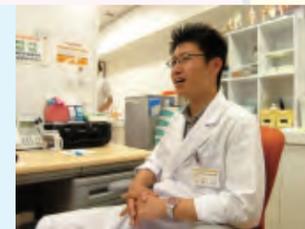
『尿沈渣検査法 2000』より抜粋

注意点

- Q、なぜ当日のおしっこなの？
- A、尿を出してから検査までの時間が長いと細胞が壊れてしまいます。
- Q、なぜ中間尿なの？
- A、最初の尿は分泌物などが含まれることがあります。
(採尿方法は4Fトイレまたは採尿室に掲示してあります。)
- Q、なぜお茶やジュースの摂取はダメなの？
- A、お茶に含まれるビタミンCやジュースに含まれる糖分は正しい検査ができなくなります。

頼る!! まちの医療機関

医療法人社団 快晴会
新横浜篠原口
整形外科・皮膚科
院長 深川 光彦先生



●診療にあたり心がけていること

医師になってから常に心がけていることなのですが、患者さんがわかりやすいようにお話をすること、患者さん側から何でも質問できる雰囲気を作ることが大事だと思って診療にあたっています。それによって患者さんの抱えている不安も解けていき、診療が終わったときには安心して帰ってもらいたいと思っています。

●充実しているところ

当院は2011年4月に開院したばかりのクリニックです。下肢静脈瘤に関しては専門センターを併設して、外来から日帰り手術まで行っています。専門の分野に特化したところが当院の強みです。また、静脈瘤で来られた方も、ちょっと腰が痛いからと整形外科で診察したり、皮膚科に関してはお子さんが非常に多いんですけど、お母さんが静脈瘤で、診察や治療を受けたりと幅広いニーズに応えられるところも充実しています。

●菊名記念病院との今後の連携について

外傷などで手術が必要な方を紹介させていただければ助かります。もちろん、症状が安定し外来・通院が可能になったときには、また当院に紹介していただき、医療機関ごとの特長が生かされた連携ができれば1番良いと思います。

●地域の方へメッセージ

駅から近いため場所的にはわかりやすいのですが、看板がまだないので、来院された方の口コミでどんどん広がってほしいなと思っています。また、診療科目以外の体調面や趣味のお話など、なんでもお気軽にお聞かせください。

新横浜篠原口整形外科・皮膚科

- 診療科目: 整形外科・皮膚科・静脈瘤外来・下肢血管外来・リハビリ
- 診療日時: 8:30 ~ 12:15 (初診は12:30まで受付)
14:30 ~ 18:15 (初診は18:30まで受付)
休診日 土曜午後・日曜・祝日
- 所在地: 神奈川県横浜市港北区篠原町3014-2 加祥ビルB1F
JR横浜線 新横浜駅より徒歩1分
- TEL: 045-717-7260
FAX: 045-717-7261



◆エコ推進チーム設置!

KMHI NEWS

7月1日より電力使用制限令が政府より発動されました。当院も制限緩和をされておりますが対象となっており、診療や治療に支障のない箇所・部門についてはできる限り節電に努めています。当院の取り組みとしては節電対策も含め、院内にエコ推進チームを設置し、さまざまな呼びかけを行っています。

具体的には

- ・IT機器を省エネモードにする
- ・診療に影響のない機器のコンセントを勤務終了後に抜く
- ・自動販売機の管理者の協力の下、冷却停止期間の延長等を行う
- ・エコ推進チームが指定した職員専用エリア
空調28℃設定
照明を常時半分程度消灯(休憩時等は80%消灯)

当院Webサイトに節電行動計画を公開しています。
<http://www.kmh.or.jp/>
できることからみんなでやってみましょう。



Eco推進チームキャラクター"エコマワリ"

今月の TOPIC

女性専門外来 乳腺外科からのお知らせ

マンモグラフィ読影医である木村有紀医師の入職により、乳腺外科の診察日が追加され以前より多くの患者さまの診療が可能となりました。

女性のための外来棟

当院の西玄関を出て、すぐ右側にある3階建ての建物が女性専門外来棟となります。専門分化した医療では解決しにくい問題を抱えた女性のために、こころとからだを総合的に診察することを目的としています。また、女性が足を運びやすく、心地よい安らぎを感じながら、病気や症状に関する正しい知識や情報を得られるような環境を考慮しています。現在、婦人科・乳腺外科・皮膚科・総合内科・こころの5つの診療科があり、連携して診察・治療を行っています。受付や診察は、すべて女性職員が対応しますので、どうぞお気軽にお越しください。

乳がん検診のすすめ

乳がんは、近年若い年齢層にもみられるようになってきましたが、早期に発見してきちんと治療をすれば生存率が高いがんといわれています。マンモグラフィ検査と専門医による視触診を合わせて行うことでより確実に乳がんを見つけることが可能です。また、しこりがあるからといって必ずしも悪性とは限りません。正しい知識を持ち、正しい治療を行うために定期的な検診をおすすめします。



当院乳がん検診の特長

- 1 受付、診察、検査をすべて女性職員が対応します。
- 2 最新鋭デジタルマンモグラフィで早期の乳がんを発見することが可能です。
- 3 横浜市検診実施機関のため、対象者の方※は横浜市規定の料金(1,370円)で検査をすることができます。

※横浜市在住の40歳以上～70歳未満の女性の方を対象に2年に1回

※70歳以上の方・クーポン券持参の方は無料です。

ご予約・お問い合わせ

菊名記念病院 女性専門外来

045-402-7035

受付時間 9時～13時 14時～17時
土曜は午前のみ



乳腺外科 診療担当表

	月	火	水	木	金	土
午前		繁永				木村
午後		繁永				

診療時間
9時～12時
14時～16時
土曜は午前のみ

※他の科についてはお電話やホームページなどでご確認ください。

編集後記

はじめまして、5月に入職しました根岸です。
よろしくお願いたします。

当院の出来事や取り組みなどを分かりやすくお伝えし、みなさまの健康に少しでもお役に立つ事ができればと思っております。ご意見・ご感想がありましたら、お気軽に広報までお聞かせください。

根岸

当院の基本理念

私たちの病院の使命—Mission—

質の高い急性期医療を通して地域社会に貢献します。

●皆さまのご意見をお聞かせください。

皆さまのご意見を紙面に反映していきたいと思っておりますので、ご意見・ご感想などをぜひ広報室までお聞かせください。お待ちしております。
E-mail: kouhou@kmh.or.jp



ピンクリボン運動を応援します。



地域医療支援病院
菊名記念病院

〒222-0011 横浜市港北区菊名4-4-27

TEL: 045-402-7111(代) FAX: 045-432-2742

URL: <http://www.kmh.or.jp/> E-mail: kikuna@kmh.or.jp